

サクラの復讐

「日本フィルハーモニー協会合唱団」と「日本フィルと第九を歌う合唱団」

(堀部一寿・高2)

12月7日、協会合唱団プラス「日本フィルと第九を歌う合唱団」のオーラルアマチュア合唱団による「第九」が行なわれました。指揮は渡辺暁雄さん、合唱指揮者はわれら協会合唱団の指揮者でもある灰谷先生です。

まず「日本フィルと第九を歌う合唱団」ですが、この日のために公募で集められ、8月から灰谷先生の鬼のしごき?にたえてきた人たちです。といつても、灰谷先生をこわい先生だと思っている人はいないでしょう。そのかわり、先生のいわれることはいつもその核心を

ついているので、みんな心にくぐざりと突き刺さるので、考えてみると、一般より公募という試みは、日本フィルが市民と共に歩むオーケストラとして、また一歩、市民にとって音楽を身近なものにしたような気がしてとても良いと思います。

つぎにぼくが所属する協会合唱団、正式名称を「日本フィルハーモニー協会合唱団」といい、もともと

五年前、日本フィルと「第九」を歌った人々の中から生まれたアマチュア合唱団です。団員数は五十人前後で、単独で日本フィルと協演するにはまだまだ力不足ですが、今回の「第九を歌う合唱団」から、協会合唱団への入団者も多く、単独で日本フィルと歌えるのももうじきのことのように思えます。団員は高校一年から、上は...、上を見ると限りがありません。独身の

男女も多く(団長がそうだからしまりが悪い)、団内で恋愛が生まれることがあるとかないとか。とにかく一度入るとやめられない合唱団なのです。

この二つの合唱団が、10月から合同で練習し、11月下旬の合宿などを通じてまとめ上げたのが、この「第九」です。

演奏のでき栄えについては、練習の成果が十分に出世たことが何よりも良かった



たと思います。

特に本番前に先生がたに言われたことが、ほとんど守られていたし、リズムも良く決まっていたと思います。一つ残念だったのは、張り切りすぎて、ときどき音程がずれたことでした。でもアマチュアの合唱団としてこの程度のことには許される

のではないでしょう。か。と言うのは、音楽が人に与える感動とは、技術だけではないからです。日本フィルが、プロの合唱団や大学の合唱団ではなしに、この公募による合唱団でやったのも、そこに理由があつたのではないのでしょうか。

思いつくまゝに書きました。が、つぎのことだけははっきり言えます。ぼくは歌いながら、舞台上で、涙が出てくるほど感激していました。

楽員A



オリオン 藤佳子

③ゆくゆくは日本フィル協会と国の援助とで運営できれば最高だと思えます。日

いときに生の音楽をきくことは重要だと思っております。言葉もたいへんでしょうが、

1978年12月(月刊)7・8月休刊

第35号

発行所 日本フィルハーモニー協会

電話 03(208)4727

とおんきごう

中・高校生音楽新聞

年間購読者募集

送料共600円を切手でお送りください。

送り先: 日本フィルハーモニー協会

東京都新宿区若松町68 (〒162)

「第九」にはドラマがある——あの合唱がもりあげるすばらしい感動がそうであるばかりでなく、歌う人、演奏する人、きく人にもそれぞれドラマがある。「第九」とはそ



思い出の『第九』

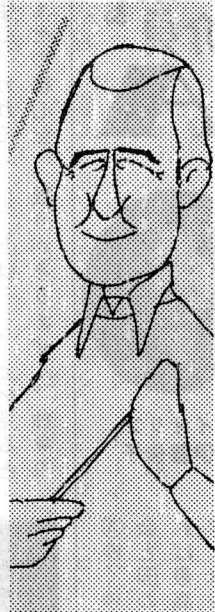
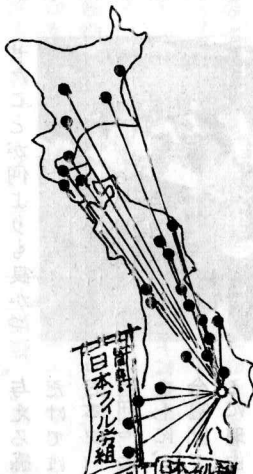
矢口進也

「第九」にはドラマがある——あの合唱がもりあげるすばらしい感動がそうであるばかりでなく、歌う人、演奏する人、きく人にもそれぞれドラマがある。「第九」とはそ

「第九」にはドラマがある——あの合唱がもりあげるすばらしい感動がそうであるばかりでなく、歌う人、演奏する人、きく人にもそれぞれドラマがある。「第九」とはそ

地方公演、今年は延べ2万Km
今年はいろいろな地方に公演に行きました。一月の長野をはじめとして六月九州、八月・九月東北、十月北陸・四国・関西、十一月北海道、しめて2万Km也。北海道では山の中でガス欠になってガソリンの

自動販売機に救われたり、宇部では徹夜運転のあとコシサートがあったり。楽員の皆さん、ご苦労さま。



渡辺曉雄氏、日本フィルの音楽監督・常任指揮者に財団解散以来、空席だった音楽監督・常任指揮者「復活」を記念公演。四月八日、マーラーの者に渡辺さんが就任。

大好評、協会バザー

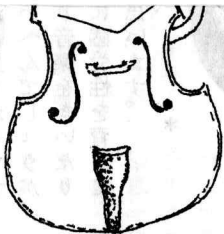


前年贈ったコントラスの代金の不足分はこのバザーですべて市価の半分以下とあって連日会場は大にぎわい。また手づくりのケーキや協会合唱団、日本フィル楽員のコンサートなど色とりどりでした。

日本フィル 今年の五つ星ニュース

毎年十あちこちが話題にそこであう」でル五大

二月になると、
で十大ニュース
になります。
、「とおんきご
今年の日本フイ
ユースを：：。

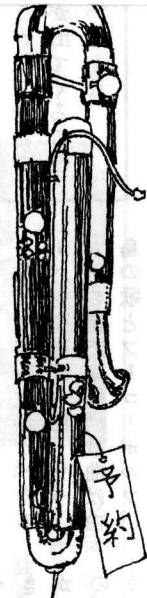


ボストン交響楽団と交歓会

3月来日したボストン交響楽団。日本フィルとは10年以上前から楽員交換などで親しくおつきあい。日本フィル、新日本

フィルとる者の交歓会で友情の再確認。そのゴチャまぜチームによるソフボール試合で、ボストン団員は体格・体力の違いをいかんなく発揮。とにかく楽しい一日でした。

78ガンバレコンサート (協会主催)



「日本フィルにコントラファゴットを贈ろう」といらいらスローガンのもと、今年にはジャズとオーケストラの競演という異色なプログラムがくまれ大成功!

イラスト
中村 勝氏
(協会員)

「第九」を歌うメンバー一人ひとりにだぶって、馬灯のようにうかんで消えてゆく。そして合奏のフィナーレとともに吹奏も終わる。こんな構図も終ります。いいです。いくつものドラマが一つの合唱をつくりあげてゆくというの「第九」にふさわしいあり方だとおもいます。「第九」が年々に演奏されるのも、そ

のドラマ性が他のどの曲よりも大きいからではないでしょうか。「第九」について、私にも忘れられぬ思い出があります。一九四九年の大晦日、私は初めて「第九」の演奏会に行きました。当時はオーケストラの数も多くはなく、「第九」の演奏会も一回だけでした。チケットの発売日にはプレイガイドに行

列ができるという状態です。そんなわけでチケットを買いそびれた私は、果たして入れてもらえるかどうか、と当日売に望みをかけて日比谷公会堂に出かけたのです。当然のこと、座席券はなく、立席なら何とか入場することができました。間もなく開演となり、拍手に迎えられて小柄なクロイツァー氏が指揮台に立つと、すぐに音が鳴り響きました。私は緊張で体をこわばらせて音の流れにひたっていききました。そのころ、まだ私は「第九」がどんな音楽かも知らず、「第九」の前に演奏されたワグナーの「さまよえるオランダ人」序曲のときに、もう「第九」がはじまったように錯覚してしまいうほど無知でしたが、つぎに本当に「第九」がはじまった時には、熱い感動が体中を駆けめぐり、ほとんど我を忘れていました。会場の片隅で立ったまままきいた「第九」。私にとって生涯に一度の経験だったと今も思っています。

ました。友人たちが学校や社会で活躍しているのを見聞きするにつけ、自分が落伍者になってしまったというあせりにさいなまれ、ますます孤独に陥ってしまいました。しかし、「第九」をきいた夜、冷たい北風にほてった頬をさらしながら、私は昂然と歩いていました。全身に勇氣のみなざるのを感じながら、来年こそ、来年こそきくと再起するぞと自分にいきかせていました。

人生には不幸や悩みはつきものです。不幸のかけりは人を孤独にし、孤独はともすれば強い意志をもった人をもくじまします。ベートーベンの音楽が、きく人に勇氣と慰めを与えるのは、彼が人生において人一倍苦しみを悩んだからではないかと思えます。彼はそれらの苦悩をつきぬけて本当の喜びをつかみました。「第九」にドラマがあるのは当然です。

年末の「第九」。私たちは新しい年にふみ込む第一歩を、「第九」の感動とともに印して行くべきではないでしょうか。

《協会員》

サクラの夜

「日本フィルハーモニー協会合唱団」と「日本フィルと第九を歌う合唱団」

(堀部一寿・高2)

12月7日、協会合唱団、ブラス「日本フィルと第九を歌う合唱団」のオーラルアマチュア合唱団による「第九」が行なわれました。指揮は渡辺暁雄さん、合唱指揮者はわれら協会合唱団の指揮者でもある灰谷先生です。

まず「日本フィルと第九を歌う合唱団」ですが、この日のために公募で集められ、8月から灰谷先生の鬼のしごき?にたえてきた人たちです。といっても、灰谷先生をこわい先生だと思ってる人はいないでしょう。そのかわり、先生のいわれることはいつもその核心を

ついでにいるので、みんな心にぐざりと突き刺さるので、考えてみると、一般より公募という試みは、日本フィルが市民と共に歩むオーケストラとして、また一歩、市民にとつて音楽を身近なものにしたような気がしてとても良いと思います。つぎにぼくが所属する協会合唱団、正式名称を「日本フィルハーモニー協会合唱団」といい、もともと5年前、日本フィルと「第九」を歌った人々の中から生まれたアマチュア合唱団です。団員数は五十人前後で、単独で日本フィルと協演するにはまだまだ力不足ですが、今回の「第九を歌う合唱団」から、協会合唱団への入団者も多く、単独で日本フィルと歌えるのもうじきのことのように思えます。団員は高校一年から、上は……、上を見ると限りがありません。独身の

男女も多く(団長がそうだからしまりが悪い)、団内で恋愛が生まれることがあるとかかないとか。とにかく、一度入るとやめられない合唱団なのです。

この二つの合唱団が、10月から合同で練習し、11月下旬の合宿などを通じてまとめ上げたのが、この「第九」です。

演奏のでき栄えについて、練習の成果が十分に出世たことが何よりも良かった。



たと思いに、特に本業に言われたら、んどう守らね、ズムも良く、と思いたつたのは、て、ときどき、たこと、チュアの合の程度、ののではない、の、という、与える感動だけではない、日本フィル、合唱団や大学、なしに、合唱団でや、こに理由がない、思いつ、したが、ははつきり、くは歌いな、上で、涙が、感激して、

Q & A 楽員紹介

編集部からの質問(左)

に答えていただくかたちでの「本人によるミニ・楽員紹介」を、この号から掲載いたします。

それぞれの答に対応する質問は、省略して番号だけを文頭に記しました。

質問…①趣味は。②どんな傾向の音楽がお好きですか。③理想のオーケストラ像について。④読者にひとこと。



バイオリン 伊藤佳子

①映画を見ること。ブラブラ散歩するのも好きです。②作曲家ではベートーベン(人間の苦しみ・喜びを感じるから)。演奏家ではフルトベングラーとカザルス(生き方に思想・主張があり、音に生命力と人間性を感じること)。演奏の傾向でいえば、暖かい誠実味のものが好きです。

③ゆくゆくは日本フィル協会と国の援助とで運営できれば最高だと思います。日本フィル専用のホールをもつて、一般の人が気軽に練習もきけ、団員でソロや室内楽の会が開けるサロンもあるといいですね。演奏では、洗練された技術の上に、中味のある、人に訴えるものをもった(独自の音・カラーをもつ)オーケストラでありたいと思います。④私は、高校生まで殆ど音楽会に行くことがなかったのが残念ではありません。若



①絵や陶器界地図を広い所をきめ風俗や歴史

ます。

番前に先生がた
たことが、ほと
れていたら、リ
く決まっていた
す。一つ残念だ
、張り切りすぎ
どき音程がずれ
した。でもアマ
合唱団としてこ
ことは許される
いでしょうか。

は、音楽が人に
動とは、「技術」
ないからです。
ルが、プロの合
学の合唱団では
この公募による
やったのも、そ
があつたのでは
ようか。
くまゝに書きま
つぎのことだけ
り言えます。ほ
ながら、舞台の
が出てくるほど
いました。

生の音楽をきくこ
だと思ひからです。
いへんでしょうが、
り音楽をきいたり
に感受性を育てて
思ひます。



ピオラ 山下進三

命を見ること。世
広げ、行つてみた
る。その土地の
友などをできるだ

ハーフ・ノート

水悪漢？ブラボー水
わが国でも昔から名
演に對して声をだし
て賞讃する習慣があ
ります。歌舞伎で、
名演技や名セリフに
「音羽屋！」「高麗
屋！」「成田屋！」
などと俳優の屋号を
叫ぶのはその代表例
です。したがって、

音楽会の名演に「ブラボー」
とか「ブラバー」などと叫
ぶのも、それほど異質なこ
とではないわけですが、こ
ちらは外国語で、ものまね
的だし、わが国の聴衆の反
応が比較のおだやかという
こともあつて、どうもまだ

けくわしく調べ、お金とひ
まがないので自分がそこに
行つたつもりになり、一人
で楽しむこと。

②交響曲ではシベリウスの
7番。弦楽四重奏はベート
ーベンの後期の曲。ブラー
ムスの室内楽曲。歌曲は白
鳥の歌とフリーゴールフ。
プロコフィエフ、ヤナーチ
ェック、コダイなども好き
な方です。

演奏家ではきいていて、
とにかくエキサイトさせる
ような人、フルトベングラ
ー、ミンシュなど。

③聴衆と演奏家の間で、常
に心がかよつてゐるような
オーケストラ。(これはオ
ーケストラにとって大きな
理想です。多くの人がこの
ことを言つてゐるのですが、
実際は非常に難しいことで
す。特に日本ではオーケス
トラの歴史が浅いので、

十分なじんだとはいえませ
ん。

なじまない理由は多分、
せつかくの名演の余韻をた
のしんでゐるのをぶちこわ
す、タイミンクの悪さと発
声？ないし音量音色の悪さ
でしょう。歌舞伎で屋号を
叫ぶのも、実にタイミンク
が難しく、大企業の招待の
団休客に依存するようにな
つて声が減りました。

ブラボーにはなんと暴漢
とか殺し屋という意味もあ
ります。TBS東京ブラ
ボーサービズなる会社？が
あるなどとききますが、名
演の余韻の暴力的抹殺だけ
はお断わり。(S)

なかなか自分たちのオケ
という気持ちになれないと思
います。これはただ単に歴
史ということだけではなく、
今までのプレジャーにも大
きな責任があると思ひます。

が、今の日本フィルはほん
のちよつとですが、そうい
う理想に皆さんの協力で近
づきつつあると思つていま
す。将来は、子供からお年
寄りまでだれにきいても、
「一番いいオケは日本フィ
ル」というようなオーケス
トラにしたいです。

④いつも日本フィルをきい
ていただいてありがとうございます。
決して多くないお小遣い等
をやりくりして券を買つて
くださるんでしょうね。社
会人になり、結婚して子供
ができて日本フィルをき
いてください。できるなら
子供連れて演奏会に来てく
ださい。

編集後記

十、十一月号と、立続け
に日本フィル定期でお届け
できないという空前にして、
絶後(にするつもりです)
の大失態を演じ、ごめいわ
くをかけました。が、今月は
恥の上ぬりをまぬかれました。

さて、今月以降の定期は、
本紙編集部待望の、上野へ
戻つての公演ですが、読者諸
氏は、なぜ編集部が上野に
こだわるか、お分りではし
ょうか。もちろん、定期の一
方の主催者である(日本フ
ィル)協会の専門部として、
より音響のすぐれたホール
の使用を喜ぶ意味もありま
す。しかし、わが編集部に
とつては、もつと重大なわ
けがありまして、それは、
文化会館は日比谷に比べ、
終演がおそく、協会からも
近いので、数十分を争う本
紙の発売がスムーズに運ぶ
こと、そして、どういふも
のか、上野の方が、本紙の
発行が良いいことなのです。
編集部は、この冷厳な？
事実を虚心坦懐に？見すえ、
来年こそ確実な編集体制を
立てようと思ひます。では、
読者諸氏の来年がすばらし
い一年となりますように。

(Y)

